

(様式)

令和8年度 学校経営の構想

作成年月日 令和8年4月2日

学校名 鈴鹿市立旭が丘小学校 校長名 三浦 靖樹

記述項目	記述内容
1 めざす 学校像	「すべての子どもに居場所とやる気を保障できる学校」 (1) 知・徳・体の調和がとれ、主体的・協働的に行動できる子どもを育成する学校 (2) 人権を大切にしたい安心して学べる学校 (3) 児童・教職員・保護者・地域が一つになった学校 (4) 教職員自らも成長し続ける学校
2 経営方針	(1) 子どもたちの「生きる力」を育む教育課程を創造する (2) 家庭や地域と共にある学校づくりを推進する (3) 教育に関わる環境や条件を学校運営協議会・まちづくり協議会と連携して整備を進める
3 達成方策	(1) 「生きて働く言葉の力の育成」を研究主題として、児童が主体的に学び、獲得した言葉を活用して伝え合う姿を目指して授業改善に取り組む。 ・教科横断を意識したカリキュラムマネジメントの推進 ・学びのツールの習得・活用（教科担任制や教科交換授業、ICT教育や学校図書館教育の充実） ・「全国学調」や「みえスタ」の結果を踏まえ、「授業力UP5★ver.2」等に基づいた授業改善 (2) お互いのよさや違いに気付き、認め合い、高め合う態度を育成し非認知能力の向上させる取組の推進 (3) 「不登校対策コーディネーター（正・副）」及び「不登校対策委員会（校内委員会）」のシステムの浸透、「ハートルーム（校内教育支援センター）」の定着、SLS・SC・SSWとのより一層の連携、「不登校支援初期対応マニュアル」・「家庭訪問シート」・「子ども支援シート」の積極的な活用により新たな不登校を生まないようにする。 (4) 校内委員会・校内支援会議を充実し、個の課題に応じた特別支援教育を充実する。 (5) 児童の実態を踏まえた各教科・道徳教育等と関連した人権教育・特別支援教育・日本語教育の推進 (6) 「体力テスト」や「発育測定」のデータをもとに、家庭・地域・関係機関と連携した体力向上の推進 (7) 学校運営協議会・まちづくり協議会との連携 (8) 会議・行事の精選等、時間外労働の削減に向けた取組 ① 1人当たりの月平均時間外労働（25時間以下） 年360時間を超える時間外労働者数（0人） 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数（0人） ② 1人当たりの年間休暇取得日数（23日以上） ③ 設定した日の定時に退校できた職員の割合（70%以上） ④ 60分以内に終了した会議の割合（70%以上）

※具体的かつ簡潔に記述してください。